

病害虫発生予察情報予報第 13 号 (4 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	4 月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)	
麦類	赤かび病	並	 赤かび病	
	うどんこ病	並		
	1. 赤かび病 播種時期等の違いにより生育状況が異なるため、圃場をよく観察し、適期に防除する。大麦の防除適期は、蒴殻抽出期（出穂期の約 2 週間後）であり、その 7 日後頃に 2 回目の散布を行うと、更に効果が高まる。小麦の防除適期は、開花始め～開花期（出穂期の約 7～10 日後）であり、開花 10～20 日後頃に 2 回目の散布を行うと更に効果が高まる（詳細は令和 7 年 3 月 24 日付け病害虫対策資料第 19 号参照）。			
大麦	網斑病	並		
	1. 網斑病 本病の常発圃場では、防除適期である出穂期～穂揃い期の薬剤散布を徹底する。			
水稲	いもち病	並	 いもち病	
	ばか苗病	並		
	1. いもち病 種子更新と既存の種子消毒剤にベノミル水和剤を加えた種籾消毒を徹底する。			
タマネギ	べと病	早生マルチ	並	 べと病 二次感染株
		中晩生	並	
	ボトリチス葉枯症		並	
	ネギアザミウマ		並	
	1. べと病 3 月に引き続き 4 月も主要感染期である。べと病は条件が整うと感染と発病を繰り返し急激にまん延するため、引き続き注意が必要である。「一次感染株の抜き取り徹底」と降雨前の「定期的な薬剤の予防防除」を地域ぐるみで確実に実施する（令和 7 年 3 月 6 日付け病害虫対策資料第 17 号参照）。 2. 細菌性腐敗症（腐敗病、軟腐病） 発生が散見される。発病株の早期除去、強風雨の前後の予防防除を行う（令和 7 年 3 月 6 日付け病害虫対策資料第 18 号参照）。			

作物名	病虫害名 ^{注1)}	4月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)	
施設果菜類	<p>1. 虫害全般（アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類） 気温の上昇に伴い、施設内の害虫の増殖が盛んになるとともに、施設内への飛び込みが増加する。多発生を防ぐため、低密度時からの薬剤防除を行う。</p> <p>2. 病害全般（灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病） 加温機の稼働頻度が低下し、植物体への結露が生じやすい時期である。こまめな換気や早朝加温によって結露を防ぐとともに、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を行う。</p>			
イチゴ	うどんこ病	やや少	 ハダニ類	
	灰色かび病	並		
	ハダニ類	やや少		
	アブラムシ類	並		
	<p>1. ハダニ類 今後、気温の上昇に伴い、さらに増殖し防除が難しくなるので、早期発見、早期防除に努める。防除効果が高めるため、薬剤散布前に古葉を除去し、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。</p> <p>2. 炭疽病 近年、本病の発生が問題となっている。病原菌の伝染を防止するため、ビニル雨よけ育苗を行い、定期的な薬剤防除を実施する。また、灌水を過度に行うと、高湿度条件が長時間維持され、感染・発病が助長されるため、灌水はその日の天候やポットの乾き具合を考慮して実施する。</p>			
キュウリ	べと病	やや少	 黄化えそ病	
	うどんこ病	並		
	褐斑病	並		
	灰色かび病	並		
	アザミウマ類	並		
	コナジラミ類	並		
<p>1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 一部圃場でアザミウマ類の発生が増えている。ウイルス罹病株を認めた場合は、早急に除去し適切に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。</p>				
トマト	葉かび病	少	 黄化葉巻病	
	灰色かび病	並		 黄化病
	コナジラミ類	並		
<p>1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 幼虫・蛹の寄生の多い下葉を除去し、密度を下げたうえで、薬剤防除を行う。ウイルス病の罹病株を認めた場合には、早急に除去処分する。</p>				
アスパラガス	アザミウマ類	並	<p>1. 茎枯病、褐斑病、斑点病 立茎開始初期から薬剤防除を行う。また、茎枯病の発病茎は伝染源となるため、見つけ次第早急に除去し処分する。</p>	

作物名	病虫害名 ^{注1)}	4月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
果樹全般	果樹カメムシ類	やや少	
	1. 果樹カメムシ類 本年のチャバネアオカメムシの平均越冬虫数は平年よりやや少ないことから、本年 4～8 月における本虫の発生量は平年よりやや少ないと予想される。ただし、越冬密度は地域によって異なるため発生動向に注意するとともに、圃場をよく観察し、飛来を確認したら早急に防除を行う。		
カンキツ	そうか病	並	 かいよう病 (葉)
	かいよう病	並	
	ミカンハダニ	並	
1. かいよう病 前年発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種（レモン、ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、展葉初期の防除を徹底する。			
ナシ	黒星病	並	
	1. 黒星病 本病の重要な防除時期である開花直前～落弁期は、7～10 日間隔で薬剤防除を徹底する。SS で散布を行う場合は、必ず全列散布を行う。なお、降雨が続く場合はDMI 剤の追加防除を行う。		
ブドウ	黒とう病	やや多	
	1. 黒とう病 新梢・新葉への感染を防ぐため、萌芽期～生育初期の薬剤防除を徹底する。		
キウイフルーツ			 かいよう病菌を含んだ樹液の漏出
茶	カンザワハダニ	並	 カンザワハダニ
	1. チャトゲコナジラミ 薬剤による防除効果は若齢幼虫期が高いので、成虫発生ピークの2週間後頃（目安は、成虫が発生ピークを過ぎて見られなくなった頃）を中心に、葉裏や裾部に十分に薬剤がかかるよう散布する。		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	4月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
キク	白さび病	やや少	 クロゲハナアザミウマ
	アザミウマ類	並	
	アブラムシ類	やや少	
	ハダニ類	やや少	
	ハモグリバエ類	並	
1. アザミウマ類 発生が散見されている。多発生すると防除が困難となるため、圃場の状況をよく観察し、低密度時から防除する。			

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害総合防除計画」も参照してください。

病虫害総合防除計画掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

○平年（過去10年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

なお、少発生が予想される病虫害等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

○農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病虫害の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。

○発生現況および気象条件が来月の病虫害の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

○各病虫害を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「佐賀県病虫害総合防除計画」をご参照ください（4ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

○1～4ページ目：予報で対象とした病虫害を抜粋して掲載しています。

4月の気象条件

○病虫害の発生に関与する4月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和7年3月20日）を基に、「気温：平年よりやや高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病虫害の発生に関与する気象条件

要素	1ヶ月予報における4月の気象予報（確率予報%）			病虫害の発生に関与する気象条件 (平年比)
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	40 (15.3℃)	40	やや高い
降水量	30	40 (161.7mm)	30	並

Ⅲ. 4月の予報

麦類

[【概要に戻る】](#)

定期調査: 44圃場
(大麦22圃場、小麦22圃場)
調査日: 3月19日～21日

1. 赤かび病

- 1) 予報の内容
発生量: 平年並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 4月の気象予報
気温はやや高く、降水量は並で、並発生の条件〈±〉
 - 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 播種時期等の違いにより生育状況が異なるため、圃場をよく観察し、適期に防除する。
 - (2) 大麦の防除適期は、葯殻抽出期（出穂期の約2週間後）であり、その7日後頃に2回目の散布を行うと、更に効果が高まる（詳細は令和7年3月24日付け病害虫対策資料第19号参照）。
 - (3) 小麦の防除適期は、開花始め～開花期（出穂期の約7～10日後）であり、開花10～20日後頃に2回目の散布を行うと更に効果が高まる（詳細は令和7年3月24日付け病害虫対策資料第19号参照）。

2. 網斑病（大麦）

- 1) 予報の内容
発生量: 平年並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生茎率 11.4%（平年7.5%、前年13.4%）
平年比: 並〈±〉
 - (2) 4月の気象予報
気温はやや高く、降水量は並で、並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 本病の常発圃場では、防除適期である出穂期～穂揃い期の薬剤散布を徹底する。

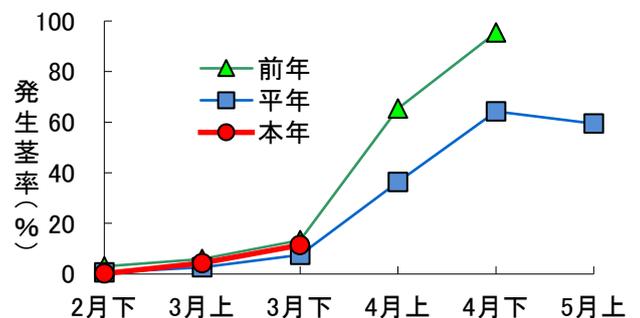


図1 オオムギ網斑病の発生推移
(2月下旬、3月上旬の平年値は過去6年平均)

水稻

[【概要に戻る】](#)

1. いもち病（苗いもち）

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 前年の穂いもちの発生状況

令和6年産水稻での穂いもちの発生株率は、上場地域の早期水稻（8月上旬）で3.3%（平年4.0%）、北部山間の早植え水稻（9月上旬）で4.6%（平年8.4%）、普通期水稻（10月上旬）で5.0%（平年16.1%）であり、早期及び早植えでは平年並、普通期では平年よりやや少なかった。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 種子更新と既存の種子消毒剤にベノミル水和剤を加えた種籾消毒を徹底する。
- (2) 育苗箱で種籾が露出すると本病が発生しやすいので、覆土を適正に行う。
- (3) 苗いもちがみられたら、早急に取り除くとともに防除を行う。
- (4) 長期残効型の育苗箱施薬剤を施用する。

タマネギ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 16 圃場、防除員 4 圃場

調査日：3月18～19日

1. ベと病（早生マルチ）

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.04%（平年1.9%、前年1.1%）

平年比：やや少〈-〜±〉

(2) 感染好適気象条件の出現状況

県内及び隣接県の気象観測地点計4地点での2月21日～3月24日時点の気象解析の結果、感染および準感染好適条件の地点あたり出現回数の積算値は平年並に推移している（図2）〈±〉

(3) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 一次感染株は見つけ次第除去する。
- (2) 週間天気予報に注意し、定期的な薬剤の予防防除を降雨前に確実にを行う。

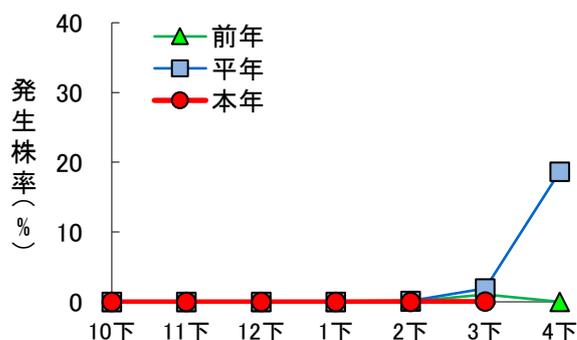


図1 早生タマネギでのべと病の発生推移

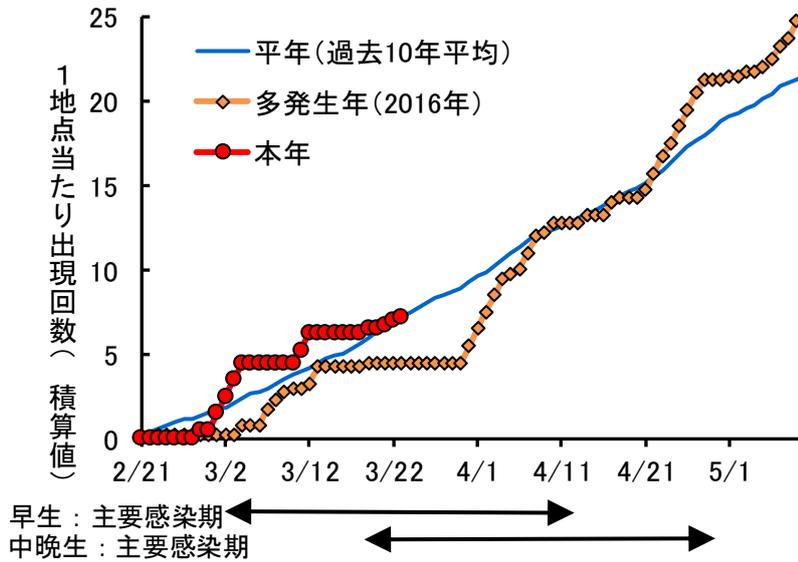


図2 タマネギべと病の感染・準感染好適気象条件の出現延べ回数

注1) 1地点当たりの感染・準感染好適条件の出現回数の積算値を示した。
 注2) 感染・準感染好適条件が現れた場合、感染株では約2~3週間後から、初発生あるいは発病株(病斑数)の増加が予想される。

2. べと病(中晩生)

1) 予報の内容

発生量: 平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率: 0% (平年0.9%、前年0%)

平年比: やや少(一~±)

(2) 感染好適気象条件の出現状況

県内及び隣接県の気象観測地点計4地点での2月21日~3月24日時点の気象解析の結果、感染および準感染好適条件の地点あたり出現回数の積算値は平年並に推移している(図2) (±)

(3) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件(±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 一次感染株は見つけ次第除去する。

(2) 週間天気予報に注意し、定期的な薬剤の予防防除を降雨前に確実にを行う。

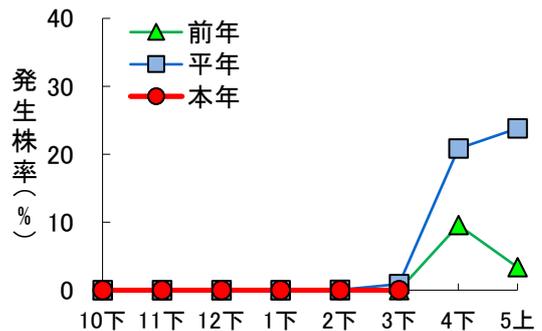


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

3. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量: 平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査(図1参照)

発生株率: 0.1% (平年2.4%、前年2.4%)

平年比: やや少(一~±)

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件(±)

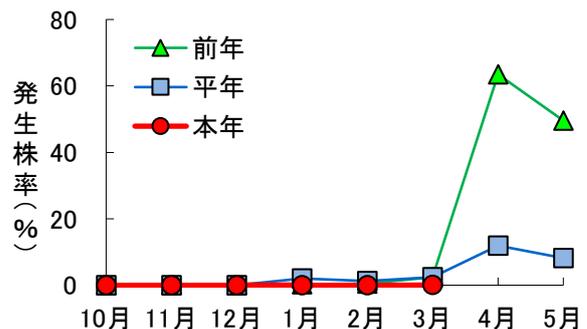


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多湿条件で多発生するため、明渠の点検・補修等により圃場の排水対策を行う。
- (2) 早期発見に努め、発生初期から10日間隔を目途に薬剤を散布する。
- (3) 曇雨天が続くことが予想される場合は降雨前に防除を行う。

4. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0.7% (平年5.5%、前年1.2%)

平年比：やや少 (一~±)

(2) 4月の気象予報

気温はやや高く、降水量は並で、やや多発生条件

(±~+)

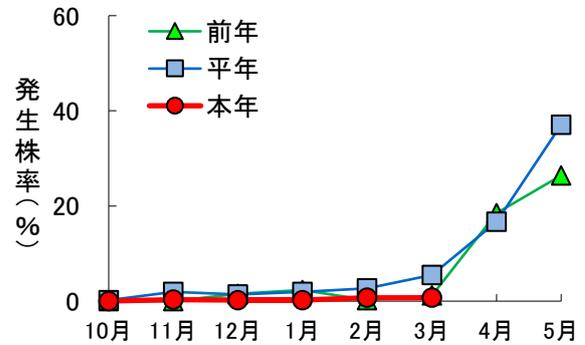


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めた圃場では、低密度時から薬剤防除を行う。
- (2) 本虫は薬液のかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、薬剤はそれらの部位にもかかるよう、生育に応じた十分量を丁寧に散布する。

イチゴ (本圃)

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場

調査日：3月14~21日

1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年1.8%、前年0%)

平年比：やや少 (一~±)

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生条件 (±)

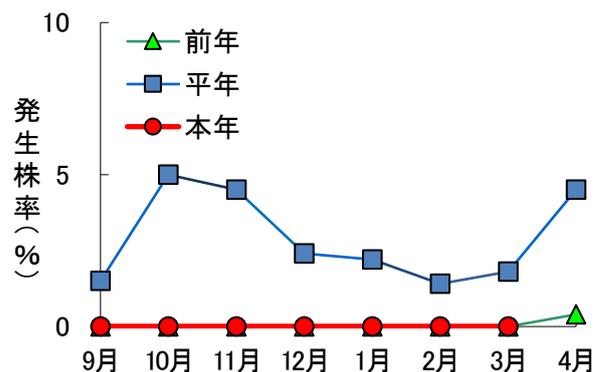


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を行う。

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：23.5% (平年28.0%、前年27.5%)

平年比：やや少 (一～±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生圃場では、系統が異なる薬剤を組み合わせ、5～7日間隔で防除を実施し、密度低下を図る。

(2) 薬剤散布前に古葉を除去し、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

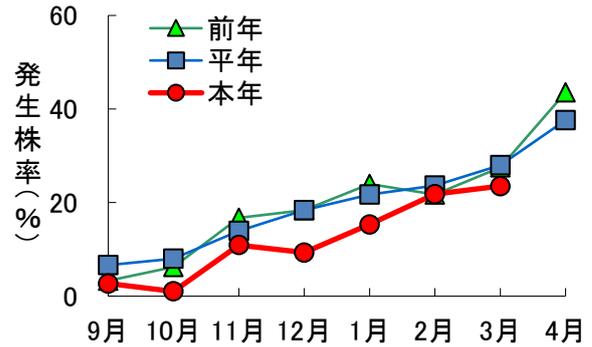


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 5 圃場、防除員 4 圃場

調査日：3月17～21日

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：1.7% (平年5.6%、前年1.1%)

平年比：やや少 (一～±)

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 加温機の稼働頻度が低下し、植物体への結露が生じやすい時期である。こまめな換気や早朝加温によって結露を防ぐとともに、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を行う。

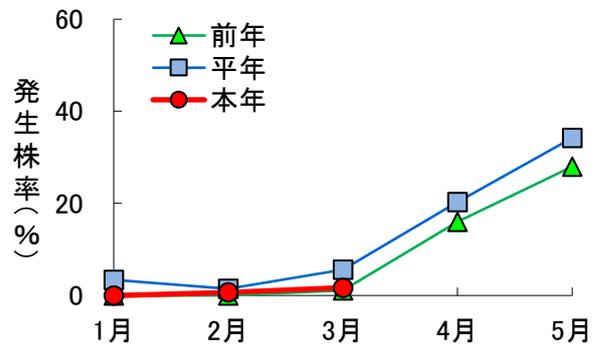


図1 キュウリべと病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：2.8% (平年3.3%、前年0.6%)

平年比：並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 気温の上昇に伴い、施設内の害虫の増殖が盛んに

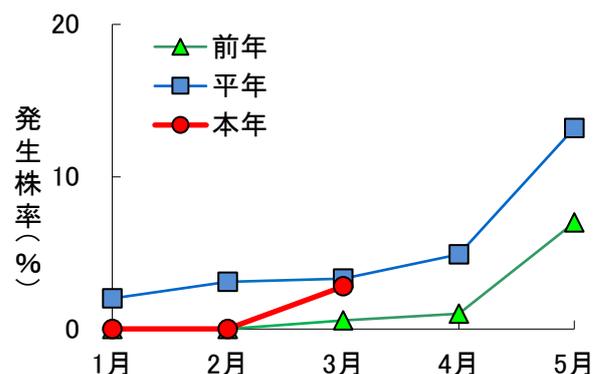


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

- なるとともに、施設内への飛び込みが増加する。多発生を防ぐため、低密度時からの薬剤防除を行う。
- (2) ミナミキイロアザミウマは黄化えそウイルスを媒介するため、早期発見、早期防除に努める。また、罹病株は伝染源となるので、圃場外に持ち出し、適切に処分する。

トマト

[【概要に戻る】](#)

定期調査：6圃場、防除員4圃場

調査日：3月17～21日

1. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：**平年並**

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：5.0% (平年 6.2%、前年 11.5%)

平年比：並 (±)

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) こまめな換気や早朝加温によって結露を防ぐとともに、発病部位の早期除去、予防的な薬剤散布を行う。

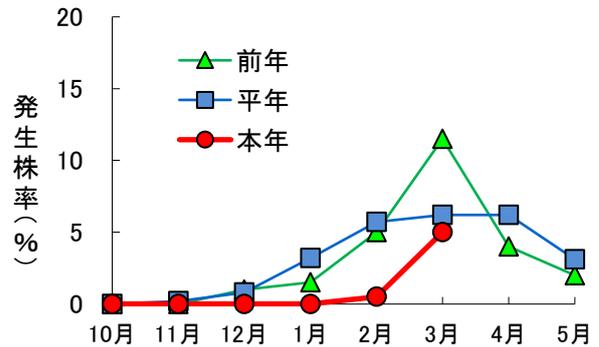


図1 トマト灰色かび病の発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：**平年並**

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：7.0% (平年 5.8%、前年 10.5%)

平年比：並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫・蛹の寄生の多い下葉を除去し、密度を下げたうえで、薬剤防除を行う。
- (2) ウイルス病の罹病株を認めた場合には、早急に除去処分する。

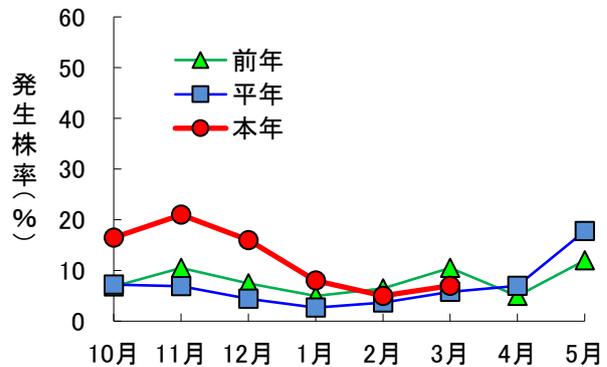


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) チャバネアオカメムシの越冬状況調査（表1）

①越冬地点率：29.4%（平年44.8%、前年84.2%）

平年比：やや少く（～±）

②平年越冬虫数：0.14頭/m²（平年0.33頭/m²、前年0.84頭/m²）

平年比：やや少く（～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本年4～8月における本虫の発生量は平年よりやや少ないと予想される。ただし、越冬密度は地域によって異なるため発生動向に注意するとともに、圃場をよく観察し、飛来を確認したら早急に防除を行う。

表1 チャバネアオカメムシの越冬状況¹⁾（R6年12月調査）

調査地域	R7	平年 ²⁾	前年	H30 (多発年)
	頭/m ²	頭/m ²	頭/m ²	頭/m ²
みやき町	0	0.4	0.3	1.0
神崎市	0.7	0.7	0.7	0.7
佐賀市	0.3	0.1	0.7	0
小城市	0	0.2	0	0
多久市	0	0.2	0.7	1.0
唐津市2	0	0.5	0.7	0
唐津市3	0	0.3	0.7	0.3
伊万里市1	0	0.1	0.3	0
伊万里市2	0	0.4	1.7	0.7
伊万里市3	0	0.3	0	1.3
武雄市1	0	0.2	0.7	0.3
武雄市2	0.3	0.5	0.7	1.3
鹿島市1	0.7	0.4	1.0	1.3
鹿島市2	0.3	0.7	2.7	2.7
鹿島市3	0	0.4	0.7	0.7
太良町1	0	0.1	0.3	0
太良町3	0	0.4	2.3	1.3
平均	0.14	0.33	0.84	0.70
越冬地点率(%)	29.4	44.8	84.2	68.4

1) 各地点3カ所(1m²/1カ所)の落葉から確認した越冬虫数の平均

2) 平年値はH27～R6の10年間の平均

カンキツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8圃場
調査日：3月17～21日

1. そうか病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並〈±〉

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 温州みかんでは、展葉初期（最も伸びた新梢が1cm程度）に必ず薬剤防除を実施する。

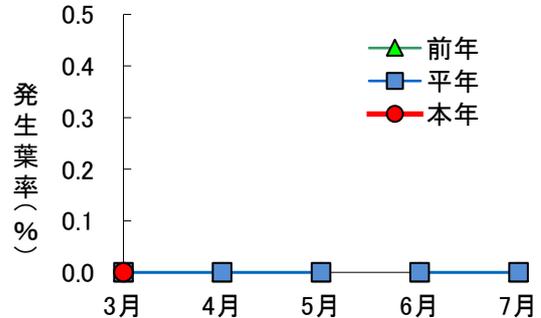


図1 カンキツそうか病の発生推移

（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

2. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：0.0%（平年0.0%、前年0.1%）

平年比：並〈±〉

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 前年発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種（レモン、ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、展葉初期の防除を徹底する。

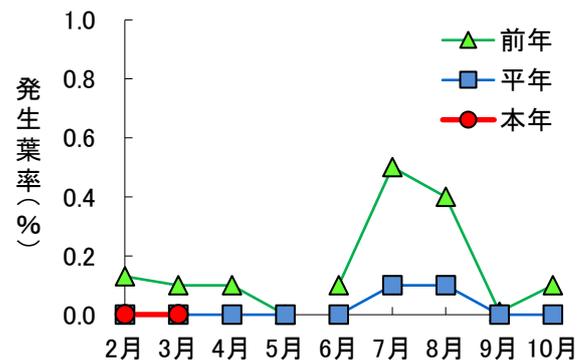


図1 カンキツかいよう病の発生推移

（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

ナシ

[【概要に戻る】](#)

1. 黒星病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 昨年秋の発生状況

①定期調査（令和6年9月）

発生葉率：0%（平年0.3%、前年0%） 平年比：並〈±〉

このことから、園内の菌密度は平年並と考えられる。

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病の重要な防除時期である開花直前～落弁期は、7～10日間隔で薬剤防除を徹底する。SSで散布を行う場合は、必ず全列散布を行う。なお、降雨が続く場合はDMI剤の追加防除を行う。

ブドウ

[【概要に戻る】](#)

1. 黒とう病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 昨年秋の発生状況

①定期調査（令和6年9月）

発生葉率：0.7%（平年0.3%、前年0.3%） 平年比：やや多〈±～+〉

このことから、園内の菌密度は平年よりやや多いと考えられる。

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 新梢・新葉への感染を防ぐため、萌芽期～生育初期の薬剤防除を徹底する。

茶

[【概要に戻る】](#)

定期調査：7園場

調査日：3月17～19日

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：1.0%（平年4.7%、前年0.9%）

平年比：やや少〈-～±〉

(2) 4月の気象予報

気温はやや高く、降水量は並で、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発後の薬剤散布では防除効果が不十分となるため、萌芽前までの防除を徹底する。
- (2) 薬剤は、葉裏、下位葉、裾葉にも十分かかるよう400L/10aを散布する。
- (3) 一番茶萌芽後に発生がみられた場合は、摘採前日数に留意し防除を行う。

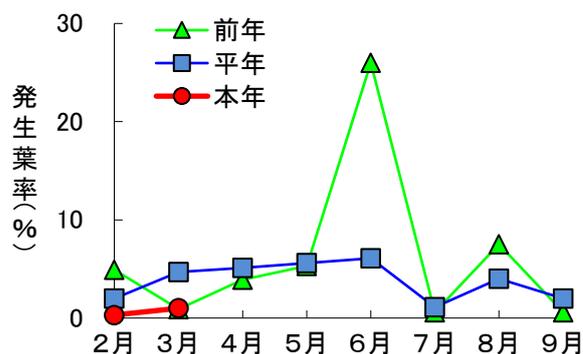


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8 圃場

調査日：3月19～21日

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年 3.3%、前年 0%)

平年比：やや少 (一～±)

(2) 4月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 換気を行うなど施設内の適切な湿度管理に努めるとともに、発病前からの定期的な薬剤散布を実施する。
- (2) 発病を認めたら、罹病葉を除去し、圃場外へ持ち出し適切に処分する。

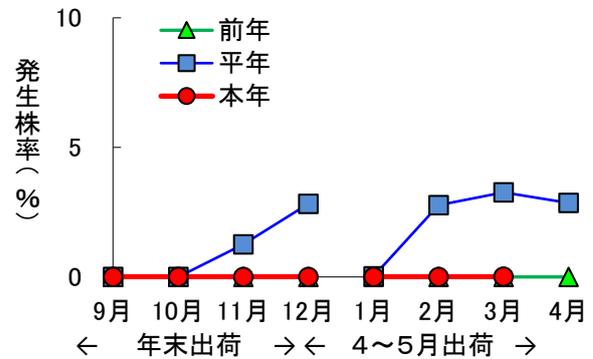


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類 (クダハアザミウマ、ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率：3.8% (平年 4.4%、前年 1.5%)

平年比：並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発生すると防除が困難となるため、圃場の状況をよく観察し、低密度時から防除する。
- (2) ミカンキイロアザミウマが媒介するキクえそ病 (TSW)・茎えそ病 (CSNV) の発病株は早急に抜き取り、圃場外へ持ち出し適切に処分する。

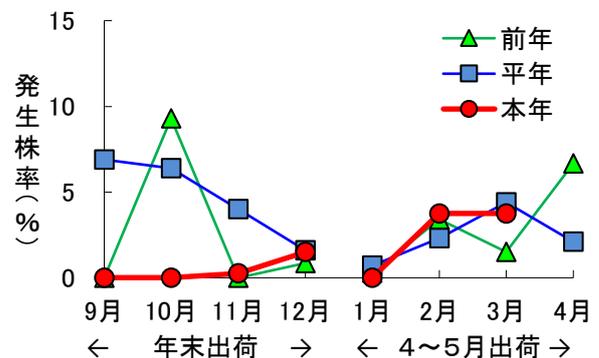


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率 0% (平年 1.5%、前年 0%)

平年比：やや少 (一～±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

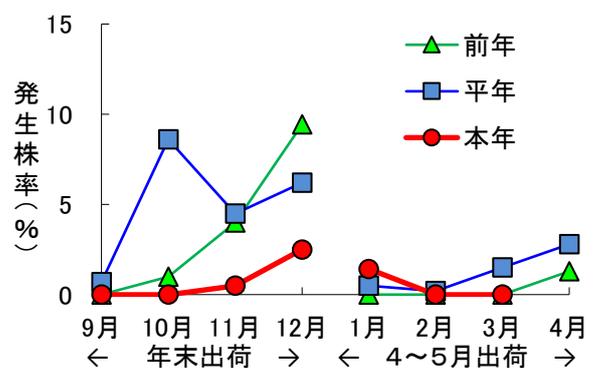


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi_jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病害虫総合防除計画掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除セ QRコード



防除計画 QRコード

